

平成 26 年度 樟蔭中学校・高等学校 学校評価

1 めざす学校像

<p>「高い知性」と「豊かな情操」を兼ね備えた、社会に貢献できる女性の育成をめざす</p> <p>1 自ら学び、自ら考える力を養う総合的な学力を育む</p> <p>2 自らの興味・関心を深め、能力・適性をさらに伸ばし、将来の目標を達成する力を育む</p> <p>3 自らの判断に基づいた行動ができる自立性と、社会生活や学校生活における規範意識の涵養に努めるとともに、様々な教育活動を通して豊かな人間性を育む</p>

2 中期的目標

<p>1 学力の育成</p> <p>(1) 授業の充実</p> <p>(2) 朝の学習や補習の充実</p> <p>(3) カリキュラムの見直し</p> <p>(4) 生徒へのサポート</p> <p>2 豊かな人間性の育成</p> <p>(1) 生活指導を通じた“Little Lady”の育成</p> <p>(2) 発達段階に応じたキャリア教育の充実</p> <p>(3) 励まし合いや思い遣りの心を養う教育活動の充実</p> <p>3 進路の保証</p> <p>(1) 高校3年生の進路希望の100%実現</p> <p>(2) 中学生及び高校1年生・2年生に対する発達段階に応じた進路意識の育成</p> <p>4 教員力の向上</p> <p>(1) 教職員の学校運営に係る体制づくり</p> <p>(2) 課題の共有と解決に向けての取り組み</p> <p>(3) 教員研修と資質の向上</p> <p>5 入学生の確保</p> <p>(1) 「樟蔭ブランド」のアピール</p> <p>(2) 学校の様々な取り組みについての正確な分析と今後のしっかりとした展望</p>

3 平成 26 年度の取組内容及び自己評価

	平成 26 年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	取組状況・達成状況・今後の改善方策
1 学力の育成	<p>(1) 授業の充実</p> <p>ア. 授業アンケートの実施</p> <p>イ. 研究授業の実施</p> <p>ウ. 電子黒板等の活用</p> <p>エ. 授業研究チームの設置</p> <p>(2) 朝の学習や補習の充実</p> <p>オ. 朝の学習の実施</p> <p>カ. 補習の実施</p> <p>(3) カリキュラムの見直し</p> <p>キ. カリキュラムの修正</p> <p>ク. 高校の新コース設置</p> <p>(4) 生徒へのサポート</p> <p>ケ. 学力や到達度の把握</p> <p>コ. 定期的個人面談の実施</p>	<p>ア. 授業アンケートの実施と結果の活用による授業力の向上</p> <p>イ. 研究授業の実施による授業内容・方法の相互チェックと改善</p> <p>ウ. 電子黒板等を活用したより魅力ある授業の実践</p> <p>エ. 授業研究チームの設置による授業改善への取り組み</p> <p>オ. これまでの総括を踏まえた、より効果的な朝の学習の実施</p> <p>カ. 明確な目的のもと、生徒の実態に応じたきめ細かな補習の実施</p> <p>キ. 各コースの目標の確認とカリキュラムの適合性の検討と修正</p> <p>ク. 生徒のニーズや大阪樟蔭女子大学の状況を踏まえた新コースの設置</p> <p>ケ. 担任や教科担当者等による生徒の学力や到達度の把握と共有</p> <p>コ. 担任による定期的な個人面談の実施</p>	<p>ア・イ 実施の有無</p> <p>アンケート結果</p> <p>ウ 活用の度合</p> <p>エ 設置の有無</p> <p>オ・カ 実施の有無</p> <p>キ 修正の有無</p> <p>ク 設置の有無</p> <p>ケ・コ 実施の有無</p>	<p>ア.イ.平成 26 年 10 月 25 日実施。結果は、個人別・教科別でまとめ、全員に提示。評価の高い教員の授業を見学。(○)</p> <p>ウ. 教員個別アンケートによると、スタートして 10 か月、何らかの形で電子黒板・テレビ・iPad を利用した教員は約 50%。(○)</p> <p>エ. 電子黒板研究チームとグループ学習研究チームを設置。積極的に活動中。(◎)</p> <p>オ. 中学の百マス計算や音読から、中高におけるリスニングや計算練習など到達度を見ながら内容を変えて実施。(○)</p> <p>カ. 希望者補習や指名補習など、きめ細かく実施。(○)</p> <p>キ. 平成 27 年度入学生のカリキュラムをコースや教科の意見を聞きながら作成 (○)</p> <p>ク. 平成 27 年度高校入学生に対して、健康栄養コースに栄養学専科とフードスタディ専科を設置。また、進学コースに言語文化専科と看護医療専科、芸術身体専科を設置。(◎)</p> <p>ケ・コ. 各学期末の成績や模擬テスト等の結果を関係者で共有。年 2 回の保護者懇談は実施しているが、個人面談は適宜実施。(△)</p>

<p>2 豊かな人間性の育成</p>	<p>(1) 生活指導を通じた“Little Lady”の育成 ア. 挨拶・言葉遣い・身だしなみ指導の実施 イ. 集団生活におけるマナー指導の実施</p> <p>(2) 発達段階に応じたキャリア教育の充実 ウ. 職業観・勤労観等の醸成 エ. 段階的取り組みの実施</p> <p>(3) 励まし合いや思い遣りの心を養う教育活動の充実 オ. 人権教育の充実 カ. 視聴覚行事・校外活動・図書館活動の充実 キ. 仲間づくりと自主性の育成</p>	<p>ア. 挨拶・言葉遣い・身だしなみ指導の全校的取り組み イ. 授業や集会に取り組む姿勢など、集団生活におけるマナー指導</p> <p>ウ. 生徒に望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識を身に付けさせるための有効な取り組みを検討・実践 エ. 自分の興味・関心や能力・適性を理解し、将来について考えさせる段階的な取り組みを検討・実践</p> <p>オ. 人権教育のさらなる充実 カ. 視聴覚行事や校外活動、図書館活動の目的の再確認と進化 キ. 様々な学校行事やHR活動などの自治会活動を通じた仲間づくりと自主性の育成</p>	<p>ア・イ 実施の有無 アンケート結果</p> <p>ウ・エ 検討・実践の有無</p> <p>オ・カ・キ 取組の有無</p>	<p>ア・イ. 挨拶運動や登下校指導、集会時の指導の実施に加え、日常の学校生活における注意等により効果は上がっている。「挨拶をよくしている82%」「ルールをよく守っている91%」(◎)</p> <p>ウ・エ. 進路指導部主導の高大連携講座や資格取得講座をはじめ、様々な説明会や体験行事を実施。また、高2・高3の進路HRにおける小論文対策講座など、HR等でいろいろな機会を利用して進路意識を高めている。(○)</p> <p>オ. 弁護士による女性の人権授業や北海道修学旅行前のアイヌ民族についての人権学習、リパティ大阪の見学授業などを実施。(◎)</p> <p>カ. 学外での芸術鑑賞行事や中学校外学舎、夏の高原学舎やスキー学舎など実施。図書館通信・アンケート等を活用した図書館活動も充実。(○)</p> <p>キ. 積極的な生徒自治会の役員を中心に、体育祭や文化祭、各種委員会も生徒主体で行われている。(○)</p>
<p>3 進路の保証</p>	<p>(1) 高校3年生の進路希望の100%実現 ア. 進路指導体制の強化 イ. サポート体制の再構築</p> <p>(2) 中学生及び高校1年生・2年生に対する発達段階に応じた進路意識の育成 ウ. 学力把握とアドバイス エ. 進路指導部に係る行事の充実</p>	<p>ア. 学年と進路指導部の連携による、進路情報の周知やきめ細かな進路相談の実践などの進路指導体制の強化 イ. 進路実現に向けての適切なサポート体制の再構築</p> <p>ウ. 担任を中心とした、生徒一人一人の学力の把握と進路目標についての適切なアドバイス エ. 進路指導部による様々な行事の継続・充実と適切なフォローアップの実施</p>	<p>ア・イ 取組の有無</p> <p>ウ・エ 取組の有無</p>	<p>ア・イ. 希望する進路の実現に向けて、個人面談や進路HRを適宜実施して、きめ細かくサポートしている。内部進学希望の生徒には、樟蔭女子大の教員による説明会や面談体験などを実施。外部大学進学希望生には志望校に応じた模擬試験を受験、個人面談において結果の分析・アドバイスを繰り返し行っている。(○)</p> <p>ウ・エ. 【中学】全員受験の模擬試験を年間5回実施し結果を分析・共有。生徒とも適宜面談している。また、オリエンテーション合宿や勉強合宿の実施、計画的な進路HRで進路意識の育成を図っている。(○) 【高校1・2年】各コースの進路目標に応じた模擬試験や進路HRを計画的に実施。各種補習や小論文指導などを通じて、目標達成への自主的な取り組みができるように導いている。また、大学の教員による出張講座や学部学科説明会により進路意識を高めている。(○)</p>

4 教員力の向上	<p>(1) 教職員の学校運営に係る体制づくり ア. 運営委員会や学年主任会議の活性化 イ. 特命化した機動性のある組織の活用 ウ. 校内LANの活用</p> <p>(2) 課題の共有と解決に向けての取り組み エ. 職員会議の充実 オ. 教員バズセッションの実施 カ. 議論の流れの明確化</p> <p>(3) 教員研修と資質の向上 キ. 到達目標システムの利用 ク. 授業観察や授業アンケートの活用 ケ. ICT技術習得研修の実施</p>	<p>ア. 運営委員会や学年主任会議の活性化と、それを通じたミドルリーダーの育成 イ. 評価・検討プロジェクトチーム（PT）など、特命化した機動性のある組織の活用 ウ. 校内LAN（デスクネット）の活用による会議のリストラ</p> <p>エ. 職員会議の有効性のさらなる確保 オ. 教員アンケートの結果を基にしたバズセッションの実施 カ. 課題解決に向けた検討の指示系統の明確化</p> <p>キ. 到達目標システムによる目標設定と達成度チェック、管理職との面談 ク. 管理職による授業観察やアドバイスと、生徒による授業アンケート結果の授業への反映 ケ. ICT機器の活用に向けた技術習得研修の実施</p>	<p>ア・イ・ウ 取組の有無 結果の評価</p> <p>エ・オ・カ 取組の有無</p> <p>キ・ク・ケ 取組の有無</p>	<p>ア. 独立した学年主任会議は行っていないが、各学年主任やコース主任を含む運営委員会で会議を実施。議論の場としての充実がさらに求められる。また、その中でミドルリーダーの育成を図っていききたい。（△） イ. 生徒・保護者・教員の意識調査を通して学校の方向性を示唆する評価・検討PT、電子黒板等を活用した教育ICTの充実へリードする電子黒板研究チーム、学び合いを中心とした授業方法の改善に取り組むグループ学習研究チームがそれぞれ積極的に活動している。（◎） ウ. 職員会議や日頃からの報告・連絡・意見交換等におけるデスクネットの活用が定着してきた。（○）</p> <p>エ. 分掌会議や教科会議、コース会議や担任会議等における教員の思いを踏まえた運営委員会での議論の結果が、全体に確認・徹底される職員会議をめざしたい（△） オ. 教員アンケートの結果は担当PT内で検討し、分掌や学年、コースや教科などに投げ掛けているが、全体で議論する場を設定するのはこれからの予定。（△） カ. 諸課題について、担当する管理職や運営委員を明確にして、迅速に対応できるように努めている。（○）</p> <p>キ. 提出された目標設定シートをもとに、管理職と面談を実施している。（○） ク. すべての授業を観察し、生徒による授業アンケートの結果も踏まえて面談している。（○） ケ. できるだけ多くの教員が参加できるように、日時の設定に配慮している。（◎）</p>
5 入学生の確保	<p>(1) 「樟蔭ブランド」のアピール ア. 「樟蔭ブランド」の再確認 イ. 新たなブランドづくり ウ. 広報活動の新たな展開 エ. 学園広報との連携</p> <p>(2) 学校の様々な取り組みについての正確な分析と今後のしっかりとした展望 オ. これまでの総括の活用 カ. 高校の新コース設置 キ. 中高大の体系的な教育体制の構築</p>	<p>ア. 教員や生徒・保護者アンケート結果を踏まえた「樟蔭ブランド」の再確認 イ. 新たなブランドづくりの完成 ウ. これまでの広報活動の検証を踏まえ、広報室を中心とした学校全体による組織的・積極的な広報活動の新たな展開 エ. 学園広報との連携の強化</p> <p>オ. 平成20年度からの取り組みの総括を踏まえた修正 カ. 高校の新コースの検討・準備（再掲） キ. 中高大の強い連携による体系的な教育体制の構築（再掲）</p>	<p>ア・イ・ウ・エ 取組の有無</p> <p>オ 修正の有無</p> <p>カ 設置の有無</p> <p>キ 取組の有無</p>	<p>ア. 各種アンケートの結果より本校への入学を決定した理由を明確にして、教員全体で共通認識している。（○） イ. 変化する生徒や保護者のニーズを把握して、新しいコースや専科を設置することや新しい取り組みを実施することにより、新たなブランドづくりに努めている。（○） ウ. 教員全員による広報活動など、広報室を中心とした活動を進めている。（○） エ. 創立百周年記念行事との関係もあり連携を進めているが、全体的な動きにはなっていない。（△）</p> <p>オ. これまでの取り組みの評価すべき点や修正すべき点を明確にして、生徒一人一人が興味・関心や能力・適性に合った学習ができるよう取り組みを進めている。（○） カ. 平成27年度入学生からの新コース・専科を設置。（◎） キ. 大阪樟蔭女子大の児童学科やライフプランニング学科等一部の学部学科との連携体制が構築されたが、国際英語学科や心理学科など他の学部学科との連携強化はこれからである。（△）</p>

4 自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見

自己評価アンケートの結果と分析	学校評価委員会からの意見（平成 27 年 3 月 20 日）
<p>○生徒[平成 26 年 7 月実施]</p> <p>学校生活や家庭での状況や意識について、30 項目についてのアンケートを行った。そのうち、肯定的な回答が特に多いもの（概ね 8 割以上）の一部を挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の雰囲気は良い ・ルールやマナーを守り、節度ある行動がとれている ・学校へ行くのは楽しい ・今のクラスが気に入っている ・学校内にいろんなことを話せる友人がいる ・家の人とはよく話をする <p>傾向は昨年度と同様であるが、その中でも学校生活の満足度や規律への取り組みの評価が高くなっている。</p> <p>○保護者[平成 26 年 12 月実施]</p> <p>学校の様々な取り組みについての満足度調査を実施した。その結果、中高合わせて全体的な保護者の満足度は高いもの（8 割以上）であり、保護者から見た生徒の満足度も概ね 8 割となっていた。入学理由については中高共に高い順から、「伝統と実績」「通学の利便性」「内部進学制度」であった。また、本校生のイメージとしては高い順に、「明るい」「真面目である」「落ち着いている」となっている。</p> <p>○教職員[平成 27 年 2 月実施]</p> <p>現在の取り組みについて、昨年度から抽出した質問項目のアンケートを実施した。生活指導や学校行事に対する自己評価は昨年と同様高いものであった。また、学校全体で取り組むべき課題に対する意識は向上しているが、学習面での取り組みや組織の在り方についてはまだ工夫・改善すべき点がある。</p> <p>【分析～取り組むべき課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業方法の工夫や内容の精選など、授業の質のさらなる向上 ・学習面をはじめ、自立した女性を育成するための様々な取り組みの点検と改善 ・施設や人材など、中高と大学との連携の強化 ・様々な観点からの、また、様々な手法による人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学校評価の内容を確認すると、現在、大きく変わろうとしていることがよく分かる。何をしようとしているのか、何が課題なのかについてはしっかり理解できた。 ・外部への情報発信がやや不足しているという感じがする。 ・アンケート結果で、「楽しい」という評価と「満足している」という評価が少し乖離しているところに何か鍵があるという説明には同感。 ・学力的に同程度と思われる公立高校の大学進学実績と比較すると、樟蔭高校の方が明らかに伸ばしているのがよく分かる。 ・すべての HR 教室に電子黒板を設置するだけでなく、図書館や体育館においても活用しているのは素晴らしい。また、コミュニケーション力が求められている中で、グループ学習を推進しているのは大変評価できるし、効果が楽しみだ。 ・分掌長等の学校運営委員との緊密なやり取りが、真のミドルリーダーの育成に繋がる。校長が引っ張るだけでは組織としては弱い。次の段階は、それぞれが、自分なりの目標や方策を考えるようになるにはどうすればよいか重要。 ・現在行おうとしている「ミドル・アップダウン・マネジメント」を推進して欲しい。 ・目的を明確にしたプロジェクトチームをその都度設置し、それぞれに任せるという手法を採っているが、機動性がよく発揮されると同時に、人材の育成の観点からも素晴らしいことである。 ・私学の最大の悩みは、ほとんど異動の無い中で、いかに人材を育成していくかにある。公立の場合は、異動すること自体が研修である。上司の仕事を見ながら育っていく、キャッチボールをしながら人を育てていく、このような環境が必要である。 ・これまではっきりと規定されていなかった管理職の任務を、公立の状況を参考にして明確にしていたことで、より責任がはっきりとし、同時に評価も確かなものになった。 ・保護者としては、子どもたちが学校で楽しく、且つ学力をつけて卒業してくれるかというところから評価する。今の状況は大変良い評価をしている。 ・私の子どもは中学から入学したが、樟蔭中学は情操教育にも力を入れており、任せておけば大丈夫という観点から選んだ。 ・大阪樟蔭女子大学が同じ敷地内にあるが、中高との連携が見えてこないようだ。施設や人材をもっと有効活用したらどうだ。 ・塾などは、学校の教員がどれだけ一生懸命に見てくれるかというところで評価する。教員の頑張りが一番である。